



2022年度 木曽地区 市政懇談会

次 第

[日時] 2022年10月7日（金） 14：30～16：00

[場所] 木曽森野コミュニティセンター ホール

司会進行： 市民協働推進担当部長 大貫 一夫
木曽地区町内会・自治会連合会 会長 金子 清勝

○ 連合会長の挨拶

木曽地区町内会・自治会連合会 会長 金子 清勝

○ 市長の挨拶

町田市長 石坂 丈一

○ 職員の紹介

○ 市政懇談会について

第1部 地域の議題に関する意見交換

1 民生委員の欠員解消について

【地域福祉部】

2 市発注の営繕工事の資材管理について

【財務部】

3 少子高齢化に対してどのように取り組んでいくのか

【政策経営部】

第2部 市政全般に関する意見交換

市長からの市政報告

○ 閉会の挨拶

閉会挨拶 木曽地区町内会・自治会連合会 副会長 紅林 里志

**2022年度 木曾地区 市政懇談会
議事録(要旨)**

[日 時] 2022年10月7日(金) 14:30～16:00

[場 所] 木曾森野コミュニティセンター ホール

[出席者] 町田市長 石坂 丈一

政策経営部長 神蔵 重徳

地域福祉部長 中村 哲也

財務部営繕担当部長 原田 功一

財務部営繕課担当課長 本田 律

市民部市民協働推進担当部長 大貫 一夫

木曾地区町内会自治会連合会長 ほか8名

事務局 市民部市民協働推進課 5名

市民部忠生市民センター長

司会進行：市民協働推進担当部長

木曾地区町内会・自治会連合会会長

○木曾地区町内会・自治会連合会長の挨拶

○市長の挨拶

○職員の紹介

○市政懇談会について

第1部 地域の議題に関する意見交換

1 民生委員の欠員解消について

木曾地区には民生委員が何年も欠員の地域があります。その地域では町内会長、自治会長が安否確認の自宅訪問などを行っていますが、生活の中に入って相談にのることができません。

このような民生委員欠員の解消について、市はどのような取り組みをしているのでしょうか。また、人々の健康寿命も延び、国の通知では民生委員の年齢要件が75歳未満とされています。民生委員の担い手が不足している中、町田市では民生委員の年齢要件を70歳未満としている理由をお聞かせください。

【回答】

地域福祉部長

まず、民生委員についてご説明いたします。民生委員の皆様には、地域に暮らす身近な相談役として、地域住民から生活上の困りごと、医療や介護、子育てなどの相談に応じるほか、課題解決のために必要な行政機関等へのパイプ役を担っていただいております。

2022年10月1日現在、市全体で定数257名のうち211名の方に活動していただいております。欠員は46名でございます。こちらの木曽地区では、22地域中5地域で欠員となっており、欠員地域にお住いの方からの相談につきましては、地区の会長に対応していただいております。

市の取り組みとしましては、市内の有識者からなる民生委員推薦会を設け、民生委員の欠員解消に努めております。市から推薦会委員に対し、候補者の情報を集める際の参考として、「青少年健全育成地区委員会」や「保護司会」など、関係団体の代表の方などの情報を記載した「関係団体名簿」を配布しています。推薦会委員は、これらの関係団体名簿等を活用して候補者の情報収集に努めております。

その他にも、2022年5月2日に開催された町内会自治会地区長会にて、民生委員候補者の情報提供依頼のご協力をお願いをさせていただきました。また、欠員見込の町内会自治会へ候補者の情報提供依頼を個別に行わせていただきました。今後も、他団体の会合などに出席させていただき、候補者の情報提供依頼を行うなど、引き続き、幅広く候補者の情報を収集し、欠員解消に努めてまいります。

また、民生委員の年齢要件でございますが、都内の民生委員は「東京都民生委員・児童委員選任要綱」に則り、一律で、新任の民生委員は70歳未満、再任の民生委員は、75歳未満とされております。国の通知のとおり、新任民生委員の年齢要件を75歳未満とすることは、欠員解消に効果があると市でも考えておりますので、民児協各地区会長や推薦会委員の声を聞きながら、年齢要件を緩和するよう、東京都に働きかけていきたいと考えております。

一方、地域では困りごとが8050問題、ダブルケアなど複雑化、複合化し、民生委員の皆様の負担も増大していると認識しております。市ではこうした困りごとに対応し、民生委員の皆様の負担軽減にも繋げるため、地域福祉の専門職である「地域福祉コーディネーター」を地域に配置してまいります。このコーディネーターの役割の一つとして、地域の潜在的な相談者の情報を収集し、本人と直接対面したり、継続的な関わりを持つことで、適切な支援機関につなげるという役割がございます。これは冒頭説明しました民生委員の役割と重なる部分ではございますが、対応に苦慮されているような複雑な相談をこのコーディネーターにお繋ぎいただくことを想定しており、地域の民生委員の皆様を支える存在としても機能させていきたいと考えており

ます。

なお、このコーディネーターは、2023年1月に相原地区及び小山地区の2地区をモデル地区として担当を配置し、2025年度末までに市内10地区に段階的に配置する予定でございます。

《質疑》

木曾親和会

今ご説明を伺いまして、一番なり手がいないというのは、やはり70歳未満ということですか。

民生委員は非常勤公務員になりますが、どのくらい給料が補助されているのでしょうか。そこがなり手がいない一番の原因ではないのでしょうか。

地域福祉部長

民生委員の活動費は、地区協議会の会長さんですか、副会長さんであるとか、そのほかの委員さんであるとかによって段階的にその活動費が決まっております。

一番大勢いらっしゃる普通の民生委員さんは年額10万5,600円。1月あたりに直しますと8,600円になります。

民生委員さんを務めていただいている方は、ほぼ全員社会福祉委員というのにも兼ねていただいております。この社会福祉委員としての報酬が、その会長や役員に就いていない方の委員の報酬で年間12万9,600円。月額にしますと1万800円です。

この先ほどの民生委員の活動費と社会福祉委員の報酬を合わせますと、月額で1万9,600円です。仕事の大変さに比べると、やはり安い金額ではあると認識しております。

木曾南自治会

小山地区と相原地区でモデルケースというお話がありましたが、具体的に成果や状況を教えていただけるとありがたいです。

地域福祉部長

先ほど申し上げた地域福祉コーディネーターが今年度から導入を順次してまいります。小山、相原地区に導入するのが2023年1月、つまりが来年の1月ということになります。それから、毎年度少しずつ広げていきまして、2025年度の終わりに全地域に配置するという予定でございます。

したがって、まだ実績というものをお話する段階にはございません。

木曾親和会

木曾森野は都営住宅で占めているので、非常に高齢者が多いところです。ほとんど毎日と言っていいほど救急車が都営住宅に入って来ます。ほとんど高齢者です。5年も6年ももう民生委員の方がいないということになると、本当にどうにもなりません。

この間、市の担当課の方が私の家まで来ました。会長さんこんなことまでやっているのですか、と言われたぐらいです。民生委員がいないからもうどうしようもなくて、亡くなった方の家を今度片付けなければなりません。それを引っ越し屋さんにも市からの援助だということだから、7月に亡くなったら7月いっぱい全部家を片付けなければなりません。そうしないと支援を受けられません。片付けるためには、引っ越し屋さんの見積りを2件取りなさいと言われます。その見積もりを封筒に入れて市の担当課に出します。その時にはどのくらい市が補助するかということがわかっていません。中には引っ越しをするのに80万ぐらい出している業者もありました。一番安いところでやろうとすると、市の計算だとそんなに額がいかないのに、市の担当課の方は私の家へ来て、市役所がこのくらいしか補助できませんがどうですかということがありました。何とか片付きましたが、民生委員がいなければ本当に相談する相手がいません。最後はお骨まで宅急便で送りました。そういうことまであるので、何とか民生委員を増やしていただきたいと思います。

地域福祉部長

民生委員の欠員の状況は、今御説明いただいたとおりであると十分認識しています。地区の会長さんにいろいろとお力添えをいただいているということも十分認識しています。市といたしましては、大至急この状況を改善しなければならぬと思っています。先ほど冒頭でもご説明いたしましたが、やはりそれぞれの地区の方で、民生委員になっていただけそうな方の候補者のリストを情報提供するという地道な努力をやる一方で、やはり人員不足を解消するためには、木曾地区の皆さんの質問の中にもありましたように、年齢制限の緩和をすることが最も効果的だと考えております。町田市が70歳未満と年齢制限をつけているのではなく、これは東京都の要綱で決まっています。これまでも要望していましたが、引き続き東京都に要望をしていきたいと思っております。東京都で許可していただけないと、町田市の推薦会で良い方を推薦していただいても、年齢が超えているというだけで、対象から外れてしまいます。何度も確認をしていますが、例外がないとその都度言われてしまいますので、引き続きその年齢制限の緩和については、こちらから東京都に訴えていきたいと思っております。

2 市発注の営繕工事の資材管理について

室内プールの改修工事の際に工事現場へ搬入された空調のダクトやステンレス製の管など新品の資材を、使用せずに廃棄用のコンテナに積み込み捨てているのを見かけました。

市が発注する営繕工事で使用される資材の管理はどのように行っているのでしょうか。

【回答】

財務部営繕担当部長

市が発注する工事で使用される資材は、当該工事における設計図書に定める品質や数量などの材料検査を行い管理しております。また、室内プールの改修工事のような大規模な工事では、工事監理業務を委託しているため、当該委託業者による材料検査を行い、ダブルチェックをすることで、適切に管理しております。

なお、建築資材の保管については、工事受注者の責任において適切に管理するものですが、市は工事発注者として、市の工事監督員を通して定期的に工事現場の安全・防犯について確認及び指導しております。

《質疑》

木曾親和会

この工事は、例えば普通の家庭ですと、3カ月間の米を買うなら50kgあれば間に合うということになり、3カ月たったら余ってしまい30kgばかり捨てちゃえというやり方と同じです。いっぱい買い込んで最後になるとものすごくたくさん捨てています。そのあたりの管理が全然されていません。

資材は一人では持てないくらいのもので1本3万円くらいすると聞きましたが、それを1本捨てるのではなく20本くらいが捨てられています。私はそういう管理をどうしてしているのかと思っています。

現場には受注業者の所長もいます。結局所長が捨てていいという許可を出していると思いますが、その辺の市の管理がどうなっているのかわかりません。ステンレスの管は1本で50万くらいだと思います。業者さんに聞くと、どうして捨てるのかわからないと言われます。わからないものを何で頼んだのかなと思います。資材を全然いじらないで捨てるコンテナの中に入れてしまいます。

もう一つは何で捨てるのかを聞くと、私には分からないと言います。その捨て方がすごいです。1本、2本どころではなく、ダクトなんかはトラックいっぱい持ってきてそっくり使わないで捨てられています。ダクトは天井裏につけるもので、そんなに壊れるものではないので、そんなに取り替えなくていいやということなのかもしれませんが、そのままつけています。営繕の

方が毎週月曜日に来ていたようですが、そういう管理は全然見ていません。だから、請負業者に責任を持たせているかもしれませんが、その辺の工事がどうなっているのかと思っています。その請負業者は全然見ていません。廃棄した品物の時にはすごいトラックで来ているので、車のナンバーから全部写真を撮っています。私ももったいないなと現場の人に聞くと、その方も何で捨てるのでしょうかと言っています。そういうことを私は現実に見ていません。営繕の方が来て管理しないと大変なことになります。話を聞くと全部捨てるには1,000万ぐらいかかるということをしていました。

財務部営繕担当部長

今のお話を聞くと、非常にもったいないなと個人的には思います。ただ、先ほども申し上げたとおり検査というのはしております。町田市で発注した工事のそれぞれの部分で、数量をきちんと積算して発注をしています。その数量がきちんと現場に届いているかどうかという検査もしております。そのため、ご覧になった材料というのは、端材、余った材料、そういったものの塊なのかもしれません。その場にいたわけではないのではっきりとしたことは言えませんが、こういった余った材料であることが考えられます。

材料は1mだったり例えば先ほど申し上げたビニールシートであれば10mだったり長い巻物で納品されます。現場で数量としては半分しか使わない、残りの半分の5mは捨てるを得ないというようなことで納品されてしまったのかなと思います。

それともう一つ、このお話をいただいて現場で調べてみました。今回、空調工事で天井を剥がして、天井の裏の配管などを交換する作業でしたが、それを交換する時、やはり中にあるものなので、場所によっては古いものなのですが新品同様でそのまま新品のような形で捨てられたものもありました。あとは天井の裏はかなり込み入っているので、そのためこの配管も既製品ではなくて、施工者の努力でサイズを少し変えた特注品を入れようとしたのですが、実際に入れようとしたら、それが入らなかったということがあったと聞いております。

もしかしたらご覧になったのはその特注で頼んで入れようと思ったら入らなくて、それでやむを得ず捨てることになってしまったものなのかと考えられます。

材料を捨てるのはもったいないということですが、中間処理施設というところがあり、材料をむやみに全部ごみとして捨ててしまうのではなく、リサイクルをしております。我々もきちんとリサイクルさせるかどうかということは、マニフェストというものでチェックをしておりますので、そこは安心していただければと思います。

木曾親和会

確かにそうしていただければリサイクルでいいと思います。実際私も見ていて、トラックで資材を山ほど積んできて、それを下ろして邪魔になるほど玄関とかに積み上げています。いつになったら、取り付けるのかと見てみると、捨てるコンテナに持って行ってそのままだと荷物になるので壊しています。3人ぐらいで踏んづけて潰して、コンテナに積んでいます。そういうやり方をしていました。もちろん裏から取ってくれば新品のようですが、裏から取ってきたものではありませんでした。トラックで運んできて、そのまま玄関に置いていたものをいつになったら使うのかと見ていたら、コンテナは運んでいました。コンテナに運んだら荷物になるから、それを潰しています。それをリサイクルとして他のものと一緒になって運んでいます。そういったビニールタイルもそうです。まだ包装してあるものを取りません。紙で巻いてそのままです。それをフォークリフトで積んでコンテナを積み込んでいます。営繕課の方は午前中くらいに来て寸法やらマニュアルを見ているらしいです。たばこを吸いながら作業してはいけないなど、そういうことはすごく見ていました。それより材料を見た方がいいと思います。物の扱い方というのがよくないです。所長も全然そういうことを関知していません。もう少し市で管理をすれば現場の責任者だって目を光らすと思います。材料をもう少しきっちり管理した方がいいと思います。我々素人が見たって無駄が多すぎると思います。

3 少子高齢化に対してどのように取り組んでいくのか

全国的に人口減少の傾向にあり、少子高齢化が増々進んでいます。このまま少子高齢化の状態が続くと様々な不都合が生じると思います。

町田市ではこのような少子高齢化をどのように捉え、どのような対策をお考えでしょうか。

【回答】

政策経営部長

ご質問いただきました「少子高齢化に対してどのように取り組んでいくのか」について、ご説明いたします。

町田市の人口は、現在約43万人ですが、昨年度市が行った将来人口推計では、この先、長期にわたって減少し続け、2040年には40万人を割り込む見通しでございます。また、少子高齢化という点では、全国的な傾向と同様に、町田市においても子どもが減少する一方で、65歳以上の高齢者は増加し続け、一段と進む見通しでございます。

今後、人口減少・少子高齢化が進むことで、地域経済の縮小や地域の担い

手不足、そして高齢化による医療や介護など社会保障費の増大といった様々な課題は避けられません。

市では、この4月に、まちづくりの新たな計画として「まちだ未来づくりビジョン2040」をスタートしており、人口減少・少子高齢化といった社会的な課題にも対応してまいります。

ビジョンの策定にあたりましては、市を取り巻く社会状況の変化として、人口減少や少子高齢社会を前提に、地域の皆さんと「2040年に向けて『住んでよかった、育ってよかったと思えるまち』はどのようなまちか」について闊達な意見交換を行い、皆さんの想いを「3つのなりたいまちの姿」としてまとめてまいりました。

具体的に申し上げますと、なりたいまちの姿の1つ目は、「ここでの成長がカタチになるまち」でございます。これは「子ども」をキーワードに、親や地域等の子どもを取り巻く様々な主体が、子どもと共に成長し幸せになれるまちづくりを進めて、町田市で暮らしてよかったと誰もが思えるような、それぞれにとっての幸せのカタチが生まれているまち、そんなまちを目指してまいります。

なりたいまちの姿の2つ目は、「わたしの“ココチよさ”がかなうまち」でございます。「くらし」をキーワードに、住む人、働く人、学ぶ人、近隣に暮らす人たちまでもが暮らしの楽しさを感じられる生活の拠点となるようなまちづくりを進め、それぞれにとってのココチよさがかなえられているまちを目指すものでございます。

なりたいまちの姿の3つ目は、「誰もがホッとできるまち」でございます。「つながり」をキーワードに、人と人とのつながりが感じられるまちづくりを進め、誰もがホッとできる居場所を地域の中に見つけられているまちを目指してまいります。

こうした「3つのなりたいまちの姿」を目指して、市の魅力を高めていくことで「なんだかんだ言っても町田が一番」と言われるような、多くの方々には選ばれるまちづくりを進めてまいります。

このようなまちづくりを進めていくことで、地域に人が集まり、賑わい、そして地域全体が活性化することが、人口減少・少子高齢化、あるいはそれらに起因する様々な課題への対策にもつながっていくものと考えております。

市では、まちだ未来づくりビジョン2040に掲げる「3つのなりたいまちの姿」の実現に向けて、まちづくりの各種取り組みを着実に推進してまいります。

《質疑》

木曾南自治会

私がこの議題を上げました。大きなビジョンの話が聞けたのはよかったなと思います。

私自身、町田市で実際自治会長をやりながら事業主でもあって今やっていますが、現実的に少子高齢化になると、例えば市税が減ってしまうとかという話が出てくる。例えば、企業の数も減れば、法人市民税も減る。ふるさと納税云々とか、国からの国庫補助金の話とかを置いておいても、やっぱり人口減少の影響というのは、結局皆さんに提供するサービスも税金で賄っていくことになっていきます。それがまず税率を上げればいいのか、そういう問題ではないとは思っていませんが、人がいないということは自治会でパトロールができなくなるとか、例えば私の自治会では夏祭りはありませんが、お祭りが成り立たなくなってくるといことも出てきます。木曾地区では現実的に、コロナだけではなく起こってきているなど感じまして、多分市の職員の方はご存じだと思うのですが、木曾地区は町田市の中でも一番少子高齢化が進んでいるエリアです。そうすると、ここをモデル地区にさせていただいて、一緒になって何か取り組んでいくことをやれたらいいなということで、この議題を上げています。

どれが正しいか間違っているかといって、何もしないのではなくて、一つ一つできることから取り組んでいけたらなと思います。例えば、私のいる木曾南自治会では、現役の世代にもう既に自治会の活動に入ってもらって何とかやっていますが、私自身今53歳で会長をやっていますが、次の世代のことももう考えています。そうすると、ここは学校もなくなるので、どちらかというところと衰退して人がいなくなるエリアになって、また昔の畑に戻るのかなとか、それならそれでもいいのかもしれないが、現実今暮らしている人もいます。そうするとパトロールとかやらなくていいのかとか、そういう極論的な話が現実出ています。実はうちの自治会では、いろんなICTの話も実は出てきていて見守りに関してICTを使おうという話もあります。それもお金をかけないでできるアイデアが出てきたりしてきますので、もしよかったら何か一緒になって実証を作っていくって、みんなにこうやってできるよというのをやっていった方がいいのかな。要は、住む人もいなければ税金も落ちないし、働く人もいなければお金が回りません。その住むところが安心できることがすごく大事なんじゃないかと思います。今、施設の統廃合のことも今私も加わってやっていますが、その全てがそこに加わっていくのかなと感じていまして、「ただ会議を開いて懇談会を開いてこういうことを考えました」ではなく、現実的に起こっていること、民生児童委員の話はまさにここだと思います。それを具体的に解決する話を、例えば何かICTを使うとか、お金がかかる話ですが、ロボット化するとかコミュニケーションのツ-

ルをインターネットでやっていくとか、何かちょっとそういうことをやっていかないと、恐らく誰も住まなくなる可能性があります。

話が飛びますが、学校が一つなくなるだけで住む人は減ると思います。今統廃合を進めていると思いますが、そのくらい学校が一つ統廃合されるだけでも影響が出てくるはずなので、これ間違えると多分南町田や、多摩境の方はすごく人が多くて木曽地区は畑になってしまうかもしれません。とにかく人が住んでいて、未来が明るく描ければいいのかなと思ったので、この議題を入れさせてもらっています。

実際先ほども話しましたが、うちの自治会でICTの話もして見守りにICTを使ってできないかということも自治会内レベルで今議論しています。例えば、簡単なセンサーを冷蔵庫やドアに取り付けることで見守りするとか、今老人会が人海戦術で行っていますが、ビッグデータにして個人情報にならないような形でお金かからないでできるとか、今そんなことも話していることをお伝えしたかったのでこの議題を出しました。

政策経営部長

地域の人材をそういう形で発掘していただいて、ICT活用してやっていただけると本当に素晴らしいことだと思っています。施設を統廃合する、集約する、ではその跡地をどうするのかというのが、次のステップの課題として今一緒に考えていただいているところだと思っています。単純になくなるという話ではないと思います。では、その地域の魅力を高めるためには、次に何をするのか、次の手はどう考えていくのかという部分について、皆さんと一緒に知恵を出し合っていければいいと思います。その中でも次世代を担っていただける若い方、お子様も含め一緒に考える機会を設ける。そのためにはSNSを利用するなど、さまざまなツールを活用しながら進めてまいります。

今回策定したビジョンも町田で生まれ育った子どもたちに次の町田市をつくってほしいという、そういった願いを込めて子どもをキーワードに、子どもを起点にいろいろな事業を展開していくことを計画しています。今会長が言われましたような少子高齢化につきましては、各地区個別の統計というのはとれていません。町田市全体で言えば一部の地区の影響かもしれませんが、昨年度は人の増加について都内で1番でした。特に子供0歳から14歳児は全国で政令市を除けば第2位という数字はありますが、地域ごとの状況を市としてもしっかりと捉えながら考えていかななくてはならないと認識しています。

市民部市民協働推進担当部長

今、ICTのお話の中で電気屋さんがいるとかというようなお話も頂戴し

ました。地区協議会の中ではある程度決まった方たちが参加することは多いかと思えます。地区別懇談会を今順次開催していますが、先ほど会長がおっしゃっていたように新たな人を呼び込んで、いろいろな発想を会議の中で話し合っています。実現話し合ったことをすぐに実行というわけではありませんが、地区協議会の中には民生児童委員の方もいたり、健全育成の方もいたり、学校の先生や警察の方もいますが、地域の中にはいろいろな方がいらっしやいます。木曾地区は10月2日に終了しましたが、これきりではなくこれから先、皆さんでいろいろな方たちを呼び込みながらの会議体が何かできないかなと考えております。是非ご近所にそういった人材がいらっしやれば、地区別懇談会のような場でお話できればありがたいです。

(司会) 地区連合会長

子どもさんのお話が宝として出ておりますけれども、新生児が生まれ成長して社会に出てくるということですが、出生をどのように確保していくか。住みよい町ということが基本になるかと思えますが、まず子どもさんをどのように増やしていくのか、確保していくのか。これは隣の町と子どもの争奪になってくるようなこともあるのかなと考えたりもしますので、そのあたりどのようにしていくかお考えがあればと思います。

政策経営部長

なかなか難しい問題です。日本全体の人口が少なくなっていく中で、決まったパイを取り合うという話が一方であると思えますが、それとは別に、子どもを産み育てていくという出生率の話があります。今の社会状況の中で2人目、3人目を育てていくには、少しハードルが高いという若いご夫婦の方が多いですが、2人目、3人目を産みたいと思えるためには、子育ての不安が払拭されなければいけないと思っています。そして、お互いが信頼できて、幸せを感じられる社会というのが求められていると思います。市でも様々な支援をしていますが、これからも子どもに関する施策を展開し、町田なら安心して子どもを産むことができ、健やかに成長できるということに確信を持ってもらえるように全国にPRしていきます。町田の年齢別人口統計を見ると、20歳代の方が流出している状況なので、流出をいかに阻止していくかというのが重要です。子どもの転入数が増えることは、30歳代前半の子育て世代の方が多く転入している状況です。そういう子育て世代の方に魅力を感じていただいているというのが現状なので、町田はこれからそこを、ビジョンを使いながらさらにパワーアップしていくことで、子どもを産み育てる親や地域へのサポートができていくと思っています。まだまだ足りない部分については、これから皆さんと一緒に考えながら、地域ごとに魅力がありますので、それぞれの生き方、働き方、生活の仕方に合わせ、町田なら様々

な選択肢を選べると思っていただけまちにしていくことができればいいと考えております。

木曾中央町内会

私は町田市のへそというところに今住んでいまして、昨年、120軒ぐらい新築ができました。ある農地が開発されて120軒ぐらいできました。町内会に入っていたきたいということで、ちょうどコロナがひどい時だったので、文書とあとは玄関口で少しお話した中で、市長も頑張っているんですが、町田は住みやすいから来たという声はかなりありました。理由を確認しましたら、やはりお子さんを育てやすいこと、都内へ出るのにバス路線など交通網があること、あと道路の整備についても着々とやっているのので引っ越してきましたという声が120件中20件ぐらい、若いご夫婦が言われておりました。あと、私が思っているのは子ども会など、やはりそういうところの充実をしていくということが一つあるのかなと思います。町田市さんも結構頑張っているんで、今政策経営部長も言われました2040年に向けてのビジョンもごさいます。そういうものをどんどん着実に進めていただければなと思いますので、今後ともよろしくお願ひします。

第2部 市政全般に関する意見交換

市長からの市政報告

新型コロナウイルス感染症ですが、第7波が収束に向かっています。先々週から市町村ごとの感染者数の発表が都道府県ごとになりました。都道府県ごとになった後も前週比の7割という数字なので、まだ続くと思いますのでまだまだ気を付けなければなりません。例えば、韓国では屋外でマスクを外してもいいということになっています。密にしなければマスクはいらないということになりましたが、日本でもそのようになるのかなと思います。市民の皆様が感染症のまん延をどのように防ぐのか、手洗いうがいや会合を自粛していただいた結果感染者が減ってきているのかと思います。改めて御礼を申し上げます。

皆様に今日お配りさせていただきました「2022年度市政懇談会 市政報告概要」という資料をご覧いただければと思います。2022年度の市全体の主な事業みたいなことが書いてあります。ここを拾いながら説明をさせていただきます。

まず病後児保育です。例えば、保育所で熱が出て帰ってくださいとなった時には、母親や父親が仕事に出ていてどうするのだという時に預かってくれる施設があります。この4月から南町田の駅前のところに新しくできました。

八王子市、相模原市とお互いの市民がお互いの市の病児保育施設を相互に利用できるという協定を結んでいますので、どちらに行ってもいいということになりました。

仕事上では、行政の区域ってあんまり関係ありませんから、お互いの都市にそれぞれ勤めに出ているので、このような相互に施設利用ができるというのは、子供を預けている方にとってはいいと思います。

保育園ですが、待機児童は75人で去年とほぼ同じです。南町田の地域はかなり待機児童が多いので、今年度80人程度の施設を建設中です。来年の4月にはオープンするので、少しは減ると思いますが南地域に転入者も多いのでいきなり0になることはないと思います。

実は、東京は待機児童がかなり減少しました。市区町村別でいうと、町田市は待機児童が多いのですが、その要因に若い世代の転入があります。それはいい話ですが、保育園の側からするとかなり転入があるので、あちこちで待機児童が出ています。何とか解消をしようと思っています。

もう一つはコロナの影響もあります。コロナの影響で待機児童が減っていると思われています。統計的な証明ができていませんが、そうじゃないかなと言われたところもあります。そうするとコロナが収束して、また経済活動がさらに活発になると、また待機児童が増えてくるのではないかと心配しております。

児童相談所については現在、町田市内に児童相談所がなく都立八王子児童相談所が担当している状況です。そのため、町田市内に設置をしてください。ということで東京をお願いをしている最中です。

「子どもにやさしいまち条例」を来年度制定しようということで今準備をしています。この条例は難しく言うと、子どもの権利に関する条例となります。町田市の場合は子ども憲章がありますが、個々人の子どもの権利ということに着目する中で、町田市全体が子どもに対して手助けをする、あるいは気にかける、あるいはまち全体が子どもを育てるように仕事上でも全く関係ない人でも、子どもにやさしいまちを意識してほしいという条例を作っています。

小山田桜台の団地の中に、児童館を作ろうと今工事していきまして、来年の7月にオープンする予定です。当初の予定では今年の3月にオープンする予定でしたが、昨年5月にウッドショックという木材の価格高騰及び供給不足により整備工事の入札が不調となったことを受け、設計内容の見直しを余儀なくされました。そのため、当初の予定からはオープンが1年4ヶ月遅れることとなります。

先ほどお話が出ていました学校の統廃合の話です。2022年度は5地区で基本計画の議論をしています。この5地区について、1地区は南第一小学校で単独の建て替え計画になっています。残りの4地区は鶴川の東と西地区、

それから2地区でそれぞれ統合をする、あるいは統合新設するという計画を今進めています。学校の名前をどうするかという議論もしています。

中学校の給食センターです。中学校の給食センターは3カ所。木曾山崎団地の中にある旧忠生小第六小学校の跡地、成瀬の下水処理場水処理センターの横の調整池、金井のスポーツ広場に中学校の給食センターを建設して、2024年度から順次中学校全員給食を全20校で行います。堺地区の堺中学校と武蔵岡中学校の給食は、ゆくのき学園の給食室から届けます。

多摩都市モノレールはルートが設定されましたので、あとは駅や駅周辺のまちづくりをどうするかという話に入りかけています。まだ全面的に展開をしていません。

スポーツ公園についてです。清掃工場の横の忠生スポーツ公園は来年の9月。小山のコストコの近くにある上沼は来年の4月。本町田の後田も来年4月。西田にある境川の調節池は、2026年の4月にスポーツ公園として整備するというスケジュールです。

国際工芸美術館の整備ですが、今年度末に着工するというので、今実施設計の作業をしています。今の版画美術館の向かい、町田荘の跡地に公園案内所や喫茶、版画工房やアート体験をつくるべく今準備をしております。

芹ヶ谷公園は、高低差がかなりありますので、エレベーターを2025年度に完成するように準備をしております。

清掃工場です。忠生地区の工場は今年1月からスタートいたしましたが、資源ごみ処理施設相原地区、武蔵岡中学校の東の方に建設すべく準備をしております。2025年度にビン・カン・プラスチック処理施設を建設するというので今進めております。

少子化について、人が少なくなる高齢者が増えてくるとなると、今まで人手でやったものを新しい技術でカバーしないと地域が回らないと思います。ICTなどでできないか考えております。

今デジタル町内会として電子回覧を町内会100団体くらいで試行しています。スマホで回覧をするものです。もちろんお金がかかることですが、これは東京都からお金をいただいて実施しています。デジタル回覧板は今無料で実施していますが、本格的に全市でやるとなると、お金をどうするかには問題が出てきます。ただ、若い人にはスマホで回覧板が来るとありがたいかもしれません。そういうやり方で情報を回していくことは大事だと思います。

人の減少、子どもの減少はやはり様々なところで問題になっています。当然、出生率が下がっていくと、日本全体の推計としても今人口1億2,000万くらいですが、8,000万とかそういう数字まで下がっていきます。日本全体の推計は今いるお子さんの数から、20年、30年たたないと子どもを産めないの、その数が途中で増えることがなければ、子どもの数も絶対数が減っていきます。今政策をしたとしても、20年30年たたないと子ども

が生まれる数が増えません。過去に100万人を切ったということで大きな話題になりましたが、今年はまだ80万という数字です。コロナの影響も当然あります。そういったことがさっきの日本全体の人口減少をさらに加速化させるのではないかと危惧されています。2020年も21年も減っているので、出生数の減少はなかなか歯止めがかかりません。20年後にも解消できないと思います。そのことを踏まえてどうするか。今のすべき政策は出生率を上げる政策。出生率を上げる政策は、20年後から25年後くらいに効果が出てくると思います。少なくとも20年で日本という国がなくなるといふことでなければ、やはり今からでもきちんと対策をしないといけないとまず思います。今出生率を上げる政策をしたとしても、その効果が出てくるのが20年か25年後であるということがまず一番大きなポイントだと思います。日本全国国の政策として、やはり子育てを中心に基本政策をシフトしていくことを決めないと、20年後も危なくなります。

もう一つは都市圏への集中があります。北海道では札幌以外人口が減っています。東北でいえば仙台以外が減っている状況になっています。3大都市圏の東京圏はそうではありませんが、関東とか関西とか九州の中心の都市だけが增える、そこを中心とする周辺で人口が減っていくという構造の中で、全体の人口が減っていく構造になっています。それはなぜかと言うと、やはり全体が都市型産業にシフトしているからです。銀行や証券、保険など金融もそうですし、開発みたいなこともそうです。本社機能のような業務は、現場を離れてできる場所なので、東京の中心、関西の中心に仕事がありそこに人が集中する。それぞれの支社や出張所がなくなっていくという構造になっています。

町田は転入超過で非常に全国的にも高いですが、昔似たような話ですが、長野県のある村で転入してきた人は土地も住宅も無料ということがあり一気に人口が増えました。隣の村でも同じことをしたら、そっちに人が移動しました。みんな同じことをやって結局元に戻るということがありました。それは現象に対して現象的なことをやっているだけのことなので、根本的な解決ではありません。本当に地道にどうやって作っていくか、仕事をどうやって作っていくかということなのかなと思います。

市民部市民協働推進担当部長

デジタル町内会については、若い世代の会員さんがいらっしゃれば紹介していただきたいです。今311町内会があるうち、105団体が導入しています。木曾地区については16団体ありますが、1団体しかお申込みがありませんので是非お申込みください。

《質疑》

木曾南自治会

市長のお話を聞いてよかったなと改めて思いました。政策経営部長のお話もそうでしたが、答えがあるわけではありませんが、それを地域の人も知った方がいいと思います。それをまた町田市は何もしてくれないとか、国は何もしてくれないではなく、どうするかといことはやはり自分たちのことは自分たちが主体となって動いていかないといけないということがわかったのかなと思います。私は現役でビジネスもやっています。町田をつなげる30に初回参加した時に、町田をシリコンバレーに私はしたいなと思っていて、現実にはアメリカのシリコンバレーに12月に行きます。小さい中小企業を町田にどんどんどんどん誘致して相模原市は製造業など中小企業が多いのですが、町田はちょっと商業の街なので、衰退気味、特にコロナの影響もあるということで、いろんな分野のビジネスが町田にあって、そこに雇用が生まれて住みたいとなると、お金と生活が回っていくのかなというのが、私の中でイメージしているところがあって、それを今着々と準備しています。

きっと町田には、いろんな人と私もおかげさまでつながらせてもらっているので、いろんな意味で町田を盛り上げたいという市民の方が結構いらっちゃって、SNSやLINE等々で情報共有がすぐできています。それも実は市民協働のおかげでもあって、ダイレクトにつながっているのがすごくいいなと思いました。町田市にもできないことをこれからやっていかなきゃいけないということが今日分かったことだけで逆に良かったなと思いました。ありがとうございます。

町田市長

子育ての不安は、私の感じではやはりワンオペというお母さんだけがやっている感じがします。今、そこにいなくてもサポートしてくれているという心理的なものが夫から得られているか得られていないかというのはすごく大きいです。現実には長時間労働でありますので、そこを何とかしないとイケません。市民病院のドクターも、全国のドクター病院のドクターもそうですが、みんな長時間労働です。今、厚生労働省から働き方改革と言われていますが、18時間連続勤務しているのはどうするのかということに対して答えがありません。実は18時間連続勤務をやめるにはシフトに入れる率を増やすしかありません。当然ですが、費用を上げるということと同時に、現実には全ての病院で実施しようとするとう医師の数が足りません。来年募集して増やそうとしても短くても10年後くらいにはしか働き方改革の実現ができないくらい医師が足りません。供給が全然できないということと同じようなことで東京、大阪の本社勤務をしている長時間勤務をしている人たちは、定時5時に帰れるようにするためには、やはりある程度知識と能力がある人を増やさないと、

長時間労働はなかなか解消しないです。

今の日本の生産性を上げると言っていますが、長時間労働前提でやっているデスクワークを中心とした都市型の産業構造、労働構造を何とかしないと結局、子供は1人。2人目は1人目が大変だったからやめます。旦那はめったに帰ってこない。9時帰宅が当たり前みたいな世界だとなかなか難しいです。少なくとも、医師の養成は別としても、男の人の長時間労働というのを何とかしないと、なかなか子供を2人目、3人目を育てることは難しいと思います。

○閉会の挨拶

木曾地区町内会・自治会連合会 副会長